

コラボ教育での学び ～COC 事業評価 学生座談会の報告～

本学では1,2年生から地域に出向き住民の方に協力いただく授業(コラボ教育)を行なうなど、全国の看護系大学でもユニークな取り組みを行なっています。これらの科目を受講して、学生がどのような学びに結びつけているのか、本学学生に集まってもらい、座談会を行いましたので、その中から学生の声を一部ご紹介いたします。

【コラボ教育を受講した感想】

「実際に住民の方と接してみたら、自分の健康をすごく気にしておられるんだな、というのを感じた。その時にどうしたら(健康が)改善できるのかということ、きちんと考えておかないと何もアドバイスができないというのをすごく感じた。」「教科書じゃなくて、(住民さんの)実際の言葉とか聞いて、『そういうふう考えてるんや』とか、その生活のなかで困ることとか、自分たちが想像していないことが聞けてよかった。住民の方からもっとそういう話を聞ける機会があったら、授業に対してももうちょっと意欲的に取り組めるかな。」

【地域についての学びに関して】

「小さいときから神戸に住んでいますが、改めて「神戸学(編集部注:神戸の歴史や文化について各分野の講師を招いて行われている講義)」で神戸のことを学んだり、神戸で働いておられる保健師の方から「神戸の人口」や「神戸市での保健活動」について聞いたりして、地元なのに知らないことが多かったの、すごく知識として生かさせていると思います。」「患者さん一人ひとり戻られる地域はそれぞれで、その地域の特徴とか特性とかも違う。何かその違いをどうやって学んでいけばいいのか、もう少し詳しく教えてもらってもいいのかな。」

【COC事業に対する希望】

「学生が出向くだけではなく、住民さんが来ていただくような授業がもうちょっとあってもいいと思います。」「地域に行ってその授業が終わったら終わりになるのではなく、継続性があったほうがいいとは思っています。」

このような生の声を参考にして、学生にも地域にも実りのあるコラボ教育につなげていきたいと考えています。(地域連携教育・研究センター 准教授 相原洋子)



学生座談会の様子
2年生3名、3年生3名が参加。

COC 研究ひろば 第6回

～地域における健康づくり活動を続ける健康づくりリーダーの力～前編

神戸市看護大学 地域・在宅看護分野 講師 波田弥生

厚生労働省が発表した2014年の簡易生命表によりますと、日本人の平均寿命は、男性が80.50年、女性が86.83年と、日本は世界に冠たる長寿国です。健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間の健康寿命も、日本人は男女とも世界トップクラスです。しかしながら、最近10年の健康寿命の伸びは、平均寿命の伸びと比べて小さく、平均寿命と健康寿命の差は広がっている状況です。ここで大切となるのが、毎日を健康的に過ごす期間の「健康寿命」の延伸です。須磨区は現在、介護保険における要介護認定割合が市内でも低く、健康的な生活を送られている高齢者の方が多い地域となっており、「健康寿命」が長くイキキと生活されている方が多い地域だと思われます。この理由の一つとして、須磨区における健康づくりリーダーの皆さんが各地域で実施されている「健康づくり活動」の効果があるのではないかと私たちは考えております。健康づくりリーダーとは、平成8年から、須磨区保健福祉部の保健師のみなさんが、地域住民のからだところの健康づくり支援として、健康づくりリーダーの育成事業を展開し、これまでに322名の健康づくりリーダーを養成されました。

健康づくりリーダーは、地域の健康づくりのリーダーとなり、現在も各地域の個性を生かし、工夫を凝らした運動や体操の教室を自主的に開催して、健康づくりの熱意を地域住民に届け続けていらっしゃいます。そして地区担当保健師は、年に1度のフォローアップ研修、各地域での体力測定と健康に関する講話を実施し、健康づくり活動に欠かせない情報と知識を広めておられます。

今回、COC共同事業として、健康づくりリーダーが地域における健康づくり活動を継続されている要因と、その活動に参加されている方々に、健康面でどのような良い効果が生じているのかを明らかにするために、須磨区保健福祉部と共同で研究を進めています。次号では、地域の方々にご協力いただきましたインタビュー内容やアンケート結果等の研究成果をご紹介したいと思います。



活動の様子